

# 人権が尊重される人間関係づくり

〈実践例 中学校第2学年 社会 「開国と近代日本のあゆみ～明治維新～」〉

## 1. はじめに

平成20年3月に文部科学省から出された「人権教育の指導方法等の在り方について(第3次とりまとめ)」の人権教育の充実を目指した教育課程の編成の中に、「教育課程の編成に当たっては 個に応じた指導を充実し、一人一人が大切にされる授業等を通じて、人権意識等や実践力を身に付けさせていく必要がある。さらに、その指導の展開に際しては、誰もが自分のよさや可能性を發揮し、輝くことができるような学習づくりに努めていくことが大切」とあるように、道徳や総合的な学習といった直接的な人権教育の際だけでなく、普段の教科の指導においても、人権尊重の視点に立った指導が大切である。

人権が尊重される学習活動づくり、人権が尊重される環境づくり、人権が尊重される人間関係づくりを通して、人権尊重の視点に立った学校づくりがはじめてできる。こうした視点を教科の指導にどう取り入れていくか、第2学年の社会を例に具体的に紹介する。



【生徒一人一人の進捗を確かめながら授業を進める】

## 2. 指導にあたって

### (1) 単元について

本題材では、明治維新の時期の政治改革について取り上げる。当時の日本は、欧米列強の脅威にさらされており、植民地化は免れたものの、諸国と不平等条約を締結せざるを得ない状況であった。そこで明治政府は、近代国家として欧米諸国と対等の関係を築くため、国民の反発にあいながらも、富国強兵政策を進めた。

不当な状況を改善しようと努力したこの改革の様子は、自らの人権を守るために、差別事象に対して行動してきた人々の姿と重なる面があると言えよう。明治政府の学制、兵制、税制の三大改革を知るだけでなく、世界的な情勢と日本の置かれた状況を踏まえて、改革の意味について考えられるようにしたい。

### (2) 生徒の実態

本校の第2学年は、時間を意識した行動や、正しい服装等、決まりを守り落ち着いて学校生活を送ることができる生徒が多い。しかし、少数ではあるものの、きまりを守ろうとする意識が低かったり、活動に意欲的に参加できなかつたりする生徒もいる。学習面においても同様の姿が見られ、授業へ意欲的に参加し、進んで仲間にはたらきかけていこうとする生徒がいる一方で、学習内容に抵抗を感じ意欲が著しく低下している生徒もいる。

こうした実態を踏まえ、本時の個人追究の場面では、一人一人が自分なりの考えをもてるように個別指導をしたり、つまずきの見られる生徒を抽出して助言したりしていく。また、仲間同士互いに相談したり教え合ったりするなど、生徒が互いに関わり合って学習に向かえるような働きかけを行っていく。こうした指導を通して、どの生徒も学習に参加できるようにする。

全体交流では、発表者と聞き手が互いを意識して交流ができるようにしていく。その中で仲間の意見に対して、どのように考えるか意識して聞けるようにしたい。また、仲間の意見や、学習姿勢に見られるよさについて着目できるように働きかけていく。

### (3) 留意点

- ① 人権が尊重される学習活動づくり（一人一人が大切にされる授業）（互いのよさや可能性を発揮できる取組）
  - ・不在の生徒はいないか、授業の準備が整っているか確認し、全員がそろって授業に参加できるようにする。
  - ・既習内容を振り返る時間を設け、本時の学習内容に向けて足並みをそろえる。
  - ・事実の読み取りで終わっている生徒には、その事実から改革の目的を考えるように助言する。
  - ・交流の場面では、話す声の大きさ、話す方向など基本的な学習姿勢について確認をすることで、生徒が意識できるようにする。
- ② 人権が尊重される環境づくり（安心して過ごせる学校・学級）
  - ・個人追究では、個別指導を通して、つまずきの見られる生徒を支援する。
  - ・生徒の発言を板書に位置付け、構造的な授業展開ができるようにする。
  - ・チョークの色を統一して見やすい黒板を作る。
- ③ 人権が尊重される人間関係づくり（互いのよさや可能性を認め合える仲間）
  - ・班ごとに調べる内容を役割分担することで、質問をしたり、社会科が得意な生徒がリードしたりするなど、周囲の仲間と関わって学習できる環境をつくる。
  - ・聞き手となる生徒に対して、発言する生徒がどんなことを言ったか、自分はどう思うかなど、生徒に問いかけることで、発表者を大切にしたい聞き方につなげる。
  - ・まとめの場面では、仲間の意見や学習姿勢のよさについて、教師が話したり、生徒がノートに書くようにしたりして、価値付けをする。



【十分できる追究時間を確保する】

## 3. 実践

### (1) 本時のねらい

新政府が行った、学制、兵制、税制の三大改革の具体的な内容を調べる活動を通して、新政府が富国強兵政策を推し進めていたことに気付き、欧米列強のインドや中国、東南アジア諸国への積極的な進出や、不平等条約締結を背景に、新政府がその脅威に対抗できるような国づくりを目指していたことがわかる。

(2) 展開の実際

|      | 学習活動   | 留意点   |
|------|--|---|
| 導入   | <p>1 明治の三大改革の概要について整理し、課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治維新を通して中央集権国家となった。</li> <li>・明治政府は学制，兵制，税制の三つの改革を行った。</li> <li>・この改革を通して，豊かで強い国を目指したのではないだろうか。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">明治政府は3つの改革を行うことで，日本をどのような国にしようとしたのだろうか。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の授業風景</li> <li>・旧開智学校</li> </ul> <p>○全員いるか，学習準備が整っているかを確認し，全員そろって授業に臨めるようにする。</p> <p>◆既習内容を振り返り，アジアの国々が欧米列強に進出されていたことを確認する。</p>  |
| 展開前段 | <p>2 資料をもとに追究し，全体で意見交流する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><b>学制</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校から大学までの学校制度</li> <li>・6歳以上の男女すべてが対象</li> <li>・全国に小学校ができる。</li> <li>・高等教育機関の設立，外国人講師，留学生の派遣</li> </ul> <p>→建設費・授業料負担が大きい</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><b>兵制[徴兵制]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・満20歳の男子対象に兵役義務</li> </ul> <p>→徴兵反対の一揆<br/>徴兵逃れ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><b>税制[地租改正]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地価を定め，3%を税（地租）として現金で納める。</li> <li>・課税の基準が収穫高から地価に変わった。</li> <li>・全国で統一した税となり収入が安定した。</li> </ul> <p>→地租改正に反対する一揆</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">優秀な人材の育成・軍事力の強化・財政の安定化</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">富国強兵政策<br/>経済の発展・軍隊を強くする</p> </div> | <p>◆列強の進出の様子，不平等条約を結んだ日本の様子を踏まえて課題について予想する。</p> <p>○つまずきの見られる生徒には，資料から事実が読み取れるように，着目すべき内容を個別指導や小集団交流において指導援助する。</p> <p>○事実の読み取りを終えた生徒には，それぞれの改革がどのような目的で実施されたのか，既習内容をもとに考えられるように促す。</p> <p>○交流を通して，仲間の意見から学べるよう，自分との共通点や相違点に着目したり，事実からどんなことがわかるかを考えたりしながら聞けるよう指導援助する。</p> |
| 展開後段 | <p>3 富国強兵政策を政府が推し進めた理由について考え交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治政府は，富国強兵政策を推し進めた。これは，当時欧米列強がアジアへの進出を積極的に行い，日本も不平等条約を結ばされている。この状況を少しでも変えていくために，豊かで強い国を目指した。</li> </ul>  | <p>◆学制のように当初はうまくいかなかったり，兵制や税制のように反対一揆がおこったりしても改革を強行したのはなぜか問い，欧米列強の脅威に対抗するために富国強兵政策を推し進めたことに気付けるようにする。</p>   |
| 終末   | <p>4 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米列強はアジア進出していた。また清はイギリスに戦争で負けていた。また，日本は列強と不平等条約を結ばされていた。これらのことを踏まえて，日本は列強に対抗できる国を作ろうとして，富国強兵政策を推し進めた。具体的には，学制による人材育成，兵制による軍事力の強化，税制による財政安定化を行った。</li> </ul>  | <p>【評価規準】</p> <p>政府が三大改革を行い富国強兵政策を推し進めたのは，欧米列強に対抗する国を作ろうとしたためであると考え，適切に表現している。(思考・判断・表現)</p> <p>○人権教育の観点に関わる留意点</p> <p>◆社会科に関わる留意点</p>  |

#### 4. 成果と課題

- 導入部では、追究のための資料やノートなどをプリントとして用意することで、全員がそろって学習に臨むことができた。また、適宜、既習内容を確認することで、全員で課題に取り組むための構えをつくることができた。
- 個人追究の場面では、追究資料をテレビ画面で提示し、その資料を追究している生徒を集め、読み取りのポイントを示した。こうすることで、気付いたことをノートにまとめることができた。また、個人追究の際、生活グループ毎に担当する項目（学制・兵制・税制）をあらかじめ決めておき、その後、調べ終わった生徒は他の制度について調べるように指示した。こうすることで、仲間同士で交流しながら調べ学習を行う姿が見られるようになった。また、つまずきの見られる生徒も一つの制度についてじっくり考えることができた。
- 全体交流の場面では、話し手に対しては、声の大きさや話す相手等、確認しながら聞き手を意識した話し方ができるように指導している。また、聞き手に対しては、話し手がどんなことを言ったか、自分はどう思うかなど、生徒に問いかけるようにしながら、互いを意識して発言できるよう指導し続けている。こうした継続的な指導が自他を大切にしている生徒の姿につながり始めている。

#### 5. 資料

##### (1) 単元指導計画

| 時  | 学習内容           | ねらい   | 追究資料  |
|----|----------------|---|---|
| 1  | 新政府の成立         | 新政府の方針や身分制度の廃止など諸改革の内容を調べ、中央主権国家の体制が確立していったことに関心をもつことができる。  | ・五箇条のご誓文<br>・廃藩置県（『歴史資料年表』）<br>・身分制度関係政策の年表       |
| 本時 | 明治維新の三大改革      | 新政府が行った学制・兵制・税制の三大改革の具体的な内容を調べる活動を通して、新政府が富国強兵政策を推し進めていたことに気づき、欧米列強のインドや中国、東南アジア諸国への積極的な進出や、不平等条約締結を背景に、新政府がその脅威に対抗できるような国づくりを目指していたことがわかる。 | ・学事奨励に関する被仰出書<br>・徴兵告諭<br>・地券 政府の収入の移り変わり         |
| 3  | 世界とつながる日本と文化開化 | 文明開化などで欧米の文化や思想をどのように取り入れていったのかをとらえ、人々の生活が大きく変化したことに気づくことができる。  | ・明治天皇と文明開化<br>・江戸時代の日本橋                           |
| 4  | 岩倉使節団と殖産興業     | 岩倉使節団の目的と殖産興業政策や北海道の開拓について調べ、政府が近代的な産業を育成しようとしたことを理解する。   | ・鉄道の開通 富岡製糸場<br>・鉄道の発達と官営工場                       |
| 5  | 近代的な国際関係       | 領土の画定に関して、政府が欧米諸国やアジア諸国に対して行った外交政策を理解することができる。  | ・琉球処分後の沖縄県<br>・日清修好条規<br>・日朝修好条規<br>・明治時代初期の外交の年表 |
| 6  | 自由民権運動の高まり     | 政府の改革への不満から士族の反乱が起きた過程を理解し、自由民権運動の高まりを憲法草案や演歌などの資料から考えることができる。  | ・新聞紙条例オッペケペー節<br>・士族の反乱と激化事件<br>・五日市憲法 東洋大日本国憲法   |
| 7  | 立憲国家の成立        | 政党の結成や憲法制定の過程を調べ、憲法の特徴を理解することができる。  | ・大日本帝国憲法(P158)<br>・大日本帝国憲法による国の仕組み                |

(2) 個人追究の際の生徒同士の交流の授業記録(一部) (A, B…生徒 T…教科担任)

A 身分にかかわらず全員が？  
B だから、みんな一緒ってこと。  
A そうそうそう。身分の差がないってこと。  
A 国に命をささげるって？(※1)  
B え、まず国のためにがんばれってこと。  
A 血税って何？  
B ん？欧米人はこれを血税と…え、なにそれ。先生。血税って何ですか？(※2)  
T 血税？税金ってお金払うやん。血税ってなんだと思う？  
A 血をあげる？  
T え、血をあげることでできないやんね。何をあげるんだらう。  
B え、何？  
A ええと、自分の体を使って国のために働けていうこと…  
B だから、軍隊とか戦争とかで身をささげろっていうことかな。  
T そうそう。  
A え、奴隷になれっていうことなの！  
B 違うよ。身分はみんな一緒になったんでしょ。  
A 軍隊の兵士として働けていうことなんじゃないかな。  
A 欧米人はってどういうこと？  
B 「欧米人はこれを血税という」っていうことは、ヨーロッパはもうやっているっていうことでしょ。  
A ヨーロッパをまねするっていうことかなあ。  
B だから、ヨーロッパに対抗できる国を作っていきたいと思っているんじゃない。それをまねしていかないと日本は強くなれないやんね。(※3)  
A 軍隊は強くなるけれど…  
B でも、みんな20歳以上が兵隊になってしまったら農民がいなくなって作物育てられない。農村がみんな女子になってしまう…(※4)  
T 資料のここちょっと見て。こことつないで考えてみて。(※5)  
A この資料みると、一揆多くないかな？1, 2, 3…8, 8回！

【生徒同士の交流】



- ※1 わからないことを素直に仲間に聞ける関係づくりができています。外見や世間体にとらわれず、ありのままの自分を仲間に見せることができています。
- ※2 わからないことを気軽に担任に質問できる担任と生徒との信頼関係づくりができています。教師と生徒との間に共感的な好ましい人間関係が醸成されています。
- ※3 仲間と考えを伝え合うことでさらに考えが深くなっていく小集団交流を意図的に位置付けています。
- ※4 追究内容に驚きや発見があり、追究する喜びや学ぶ楽しさを味わわせることができています。
- ※5 さらに考えを深めていくための教師の的確な助言がある。問題解決に向けて、多面的に物事を解決しようと、あきらめることなく追究する雰囲気がある。

【生徒Bの学習の振り返り】

今日は明治政府は三大改革で富国強兵を目指したことがわかったし、欧米諸国に対抗するためにこのようなことをやったということがわかりました。今日は、たくさん話し合っただけで答えを出すことができたし、自分とは違う仲間の意見を知ることができたのでよかったです。